

情報科「情報の表現と管理」授業実践紹介

授業者：立石 孝樹

学 年：2年次普通科・キャリア探求科

単元名：文書による表現

単元のねらい（7つのチカラ：職業とつなぐ力 考える力 行動する力）

- ・情報を伝えるときに何が必要かを考え、作品を作成することができる。
- ・コンピュータの操作の仕方を覚え、活用することができる。

単元の流れとパフォーマンス課題

① ワードの基本的な使い方を確認する。（3時間）

文字を入力するだけでなく、文字装飾・表・イラストなど様々な機能を使えるように、操作手順の説明を聞きながら一緒に操作する。また、練習問題に取り組みせ、理解度の確認をする。

② パフォーマンス課題（5時間）

『探究学習発表会のポスターを作成しよう！』

広報担当者になった気持ちで、「探究学習のことを知ってもらい、ぜひ見に行ってみよう」と思ってもらえるようなポスターを作成する。

③ 改善点など作品の評価をする。（2時間）

グループを作り、作成したポスターの評価をグループ内でしていく。



グループで相互評価をしている様子

パフォーマンス課題の評価

	2	1	0
I 関心・意欲・態度	情報を伝えることを常に意識し、工夫してポスター作成に取り組み、完成させることができた。	ポスター作成に取り組み、完成させることができた。	ポスター作成に取り組んだが、完成させることができなかった。
II 思考・判断・表現	文字の大きさや色彩、配置などを考えてポスターを作成することができた。	分かりやすく見やすいポスターを作成することができた。	見やすいポスターを作成しようと努力したができなかった。
III 技能	レイアウトを工夫したり図形の加工をしたり、様々な機能を使い作成することができた。	図形や写真などを使い、作成することができた。	文字だけで作成した。
IV 知識・理解	相手に伝えたいことがわかり、見やすさを意識している。	ポスターの見やすさを意識している。	ポスターの見やすさを意識していない。

単元を通して身につけてほしいこと

- ・ポスターという表現手段を使って、自分の伝えたいことを伝える力を身に付けてほしいと考えている。そのために必要な視点として「見た人に情報が伝わるか」を意識して、画像や短いキャッチコピーを効果的に伝えるための工夫を考えさせたい。また、編集ソフトの操作スキルについては、自分の思いを表現するための手段として学んでほしい。

実践の背景

- 情報を伝える表現手段としては、文字・画像・音楽・動画など様々な手段があるが、その中でもよく使われる文字と画像を使って「伝える」ことを意識したポスター製作の実習に取り組んだ。ねらいとしては、「見た人に情報が伝わるか」という視点を重視して、企画や相互評価のときに繰り返し説明をし、意識させるようにした。

授業改善のアプローチ

- 自分で最初から考えるのが苦手な生徒も多くいるので、インターネットを使い、ほかの人の作った作品を見ることから始めた。その中で、ポスターから見えてくるメッセージやターゲットを分析することで、ポスターという表現手段の工夫や特徴を考えさせた。
- いきなりコンピュータを使って製作するのではなく、紙ベースで大まかなイメージを考えさせてから、コンピュータでの作業をするようにした。これは、企画を考えるときの流れに近いことを体験させることと、アイデアを表現しやすくすることを目的としている。

生徒の変容

表現方法の特性を理解し、それをふまえて自分のメッセージを伝えるために、どのような色遣い・構図にするか、何を文字として書くかを、十分意識して製作することができた。また、ほかの人の意見も参考にして、より見やすく、情報が伝わるポスターになった。

評価

次の長期ルーブリックに基づき、今学期の評価をしました。

パフォーマンス課題による評価（75%）、提出物や課題の提出状況による評価（25%）

	C	B	A
I 関心・意欲・態度	コンピュータや情報通信ネットワークなどに関心をもち、身のまわりの問題解決に取り組もうとするが、あきらめてしまうこともある。	コンピュータや情報通信ネットワークなどに関心をもち、身のまわりの問題解決に取り組み、情報を取捨選択し活用しようとする。	コンピュータや情報通信ネットワークなどに関心をもち、身のまわりの問題解決に取り組み、適切な情報を取捨選択し活用することができる。
II 思考・判断・表現	情報を収集・処理・発信する方法を工夫したり、結果を踏まえて改善する努力をする。	情報を収集・処理・発信する方法を工夫したり、結果を踏まえて改善することができる。	情報を収集・処理・発信する方法を工夫したり、結果を踏まえて改善するとともに、情報モラルを踏まえた適切な判断ができる。
III 技能	コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用して、目的に応じて情報を適切に収集することができる。	コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用して、目的に応じて情報を適切に収集・処理することができる。	コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用して、目的に応じて情報を適切に収集・処理・発信することができる。
IV 知識・理解	定期考査等で習得の程度が25%以上である。また、実習の成果物の内容が50%以上のできばえである。	定期考査等で習得の程度が50%以上である。また、実習の成果物の内容が70%以上のできばえである。	定期考査等で習得の程度が70%以上である。また、実習の成果物の内容が90%以上のできばえである。